

## 廃棄物の広域移動

一廃は27・1万トン  
産廃は4192・6万トン

環境省  
まとめ

### 都市部で施設逼迫

環境省はこのほど、「廃棄物の広域移動対策検討調査及び廃棄物等循環利用量実態調査報告書」（広域移動状況編、2011年実績）を取りまとめた。11年度に全国の市町村が民間業者などに最終処分を委託し都道府県外へ搬出した一般廃棄物の量（都道府県外搬出量）の総計は27・1万トンとなっている。	ブロック別に見ると、関東ブロックが16・4万トン（都道府県外移動総量に対する割合60・7％）と最も多く、次いで中部ブロックが7・5万トン（同27・7％）、以下北海道・東北ブロックが1・3万トン（同4・8％）、九州・沖縄ブロックが0・7万トン（同2・4％）となっている。	一方中間処理または最終処分目的で都道府県を越えて広域移動した産業廃棄物の量は、全国計4192・6万トンとなっている。ブロック別にみると関東が2008・2万トン（同47・9％）で最も多く、中部649・4万
--	--	---

トン（同15・5％）、近畿600・2万トン（同14・3％）、九州・沖縄385・5万トン（同9・2％）、中国256・2万トン（同6・1％）となっている。

大都市圏では人口や経済活動の集中により大量の廃棄物が排出されているが、その一方で土地が高度に利用されていることなどで最終処分場などの処理施設が逼迫している。

同調査は広域移動している廃棄物の主な種類を調査しその要因を分析し、対策を検討することで廃棄物広域処理場の計画策定のための基礎資料とすることを目的としている。